

## 企業会計的手法で見た滋賀県財政

### 1 平成19年度バランスシート等の概要

現在、国や地方公共団体の会計は、「収入」と「支出」の面からのみ財務管理するいわゆる単式簿記で処理されていますが、近年、財務状況を資産や負債といった側面から把握する手法として、企業会計的手法で見る試みがなされており、本県においてもバランスシート等の財務諸表を作成しています。

今年度は普通会計におけるバランスシート、公営事業会計を含めたバランスシート、行政コスト計算書および地方独立行政法人、地方三公社、県出資比率が二分の一以上の第三セクターなど関係団体を含めた連結バランスシートを試算しました。

#### 平成19年度の特徴

##### バランスシート

資産： 対前年度 348 億円  
有形固定資産、投資等、流動資産のすべてで減少

有形固定資産は、減価償却費の増加等により減少するとともに、基金の取崩し等により投資等や流動資産が減少しました。

負債： 対前年度 + 60 億円  
固定負債、流動負債が増加

臨時財政対策債等の発行により、県債残高が増加したため、前年度に引き続き固定負債が増加するとともに、県債の翌年度償還予定額が増加したため、流動負債も増加しました。

正味資産： 対前年度 408 億円  
国庫支出金、一般財源等が減少

正味資産は、一般財源等が前年度に比べ 327 億円の減となり、これまでの世代によって負担された比率が低下し、将来世代の負担が増加しています。

##### 行政コスト計算書

県民1人当たりコスト：  
対前年度 8,197 円  
人にかかるコストをはじめ、すべての性質別コストで減少

人にかかるコストは、退職給与引当金繰入等の減により県民1人当たりで 3,663 円の減になるとともに、普通建設事業費にかかる補助金等の減により移転支的コストが県民1人当たりで 3,329 円の減となるなど、すべての性質別コストで減少しました。